

心やさしい 李兵衛さん

絵：野口宣友



会見の里の天萬に李兵衛さんという馬を使って荷物を運ぶ商いをしてる男があつたげな。

さて、この李兵衛さん、誰かれかまわず妙な質問をするので、近郷から奇異な目で見られていますが、当の本人はまるでお構いなしで、今日も名主の文右衛門さんに真面目な顔で質問します。「鶏は裸足で大丈夫ですかね？」というので、名主さんは「鶏に聞いてみる」と言つと、李兵衛さん「大丈夫らしいです。ケッコ、ケッコ、コケッコと鳴いとりますわ」名主さんは「おお、そつか、そりゃあよかつた。それじゃあ鶏は裸足のまま遊ばせておいてあげなさい」と言つと、「はい！そつします」と相談に乗つてもらつてうれしそつです。

ある時、李兵衛さんは名主さんご夫婦に仲人をお願いして、溝口の方からおさいさんというお嫁さんをもらいました。さて、その結婚のお祝いの宴に、姿も立派な蟹が出されました。李兵衛さんは名主さんに「蟹はどけて食べへえもんですか？」と聞きました。李兵衛

さんは蟹を食べるのは初めてでした。名主さんは「蟹というものは、昔からふんどしをはずして食わないと、あたる」といわれてんだ。いいか、お前もふんどしを取つて食べよ」と教えました。李兵衛さんは不思議そうに聞いていましたが、すべに「ああ、そげですか！」と言つて、やあら立ち上がり、なんと自分のふんどしを袴の間からはずして放り出し「名主さま！おごりんさん！これで蟹を食つてもあたらねえですね」と念を押したので、おさいさんは顔を真っ赤にしてうつむきました。みんなはそれを見て大笑いしましたが、当の李兵衛さんはおいしい蟹に舌鼓をうつていました。

こうして嫁いできたおさいさんと李兵衛さんは大変仲が良く、評判のおしどり夫婦でしたが、ある日おさいなことで夫婦喧嘩をしてしまいました。たいそう腹を立てた李兵衛さんは「おまえみたいなものを出て行け！」と怒鳴りました。おさいさんは泣く泣く表口から出て行くこうとすると、李兵衛さん「そげなところから出えやつが

ああだか！」と怒ります。しぶしぶ裏口から出て行くこうとすると、「そげなところから出えやつがああだか、てつちようだがあな！」と怒ります。おさいさんは「それならどつから出ええだかいな」と聞くと、「そこの格子窓から出れ！」と答えるので、「格子窓から出られえもんか！」と言つと、「ばか！出られにゃ出るな」と言いました。この後、夫婦はますます仲良く暮らしました。

ある日李兵衛さんは、馬と一緒に隣町から石臼を買つて戻る途中、石臼を担いだ馬があまり疲れた様子なので、「やれな、馬がかわいそうだな。よしよし、今度は俺が背負つてやるべ」と、馬の背にあつた石臼を自分の背中に背負いしました。そして石臼を背負ったまま、「どっこいしょ」と馬に乗つて帰つてきました。迎えに出てきたおさいさんはそれを見て、「お前さんまで馬に乗らんでもよかつたじやねえだか？」と言いました。これを聞いた李兵衛さん「あら、馬をいたわつたつもりだがね」

おしまい